

【体育・中2・「器械運動・跳び箱」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 跳び箱運動について、特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解することができる。
跳び箱運動について、技をよりよく行うことができる。
- (思・判・表) 跳び箱運動の技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (主体態) 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、良い演技を認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などや、健康・安全に気を配ることができる。

ICT活用のポイント

生徒各自の跳び箱の様子を動画で撮影し、繰り返し見ることができる。

【導入】

本時のめあてをつかむ

演技会で、よりよい技を披露し
仲間の演技を認め合おう。

【展開】

演技会に向けて、最終練習、競技会、審査会を行う。

【まとめ】

器械運動の学習のまとめを行う

事例の概要

跳び箱運動の採点・評価を生徒同士に行わせるために、録画機能を活用し、演技動画を撮影し繰り返し見られるようにする。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 展開の場面でペアになり、跳び箱の技を撮影する。その後、審査会でその動画を再生し、一時停止やコマ送りをすることで、根拠を持った採点を行う。
- 審査用紙を写真で撮り、審査用紙と動画を学習支援ソフトを使いウラスで共有する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- まとめの場面で、単元の最初に配布した表計算ソフトに振り返りを書き込む。

【体育・中2・「器械運動・跳び箱」②】

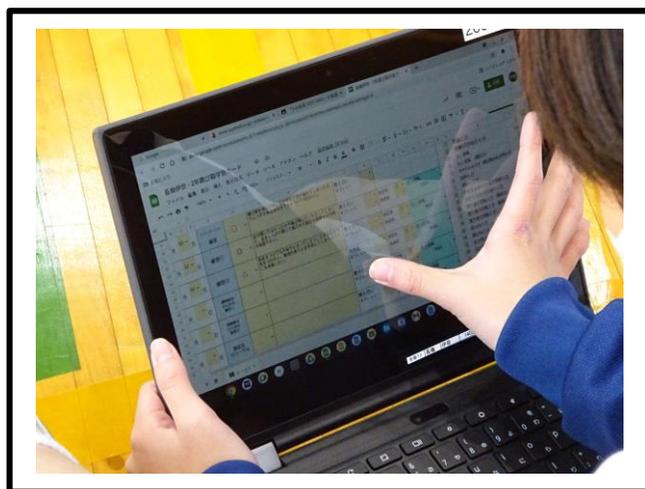
【事例におけるICT活用の場面①】



競技を行う際はペアになり、相手のICT端末でお互いの様子を動画で撮影する。その際、失敗しないよう練習の場面では技の練習だけでなく、動画の撮影練習も行う。(写真①)

動画を再生しながら、審査用紙に採点を記入する。その際、動画を一時停止したりコマ送りをすることで、採点に根拠を持つようにする。また、その根拠は採点用紙にコメントとして記入して相手に伝える。(写真②)

【事例におけるICT活用の場面②】



授業の振り返りでは、各個人に配布された表計算ソフトに、授業の取組を「◎、○、△」で評価し、文章も記入する。また、授業で取り組んだ技や授業の形態(教え合い)などを選択する。やりとりは、先生と生徒の1対1なので、生徒は他の生徒に見られることなく、安心して振り返りを記入することができる。

【活用したソフトや機能】

- ・カメラ
- ・動画撮影
- ・再生(一時停止、コマ送り)
- ・学習支援ソフト
- ・表計算ソフト